

2006年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、高緯度では正偏差が卓越し、グリーンランドからカナダ北部にかけて明瞭な正偏差が見られた。中緯度では、日付変更線付近の50°N 付近で正偏差、30°N 付近で負偏差となり、南北対の偏差が顕著だった。また太平洋の日付変更線付近から北米にかけては、波列状の偏差が見られた。一方、北米東部と大西洋からヨーロッパにかけては負偏差、地中海では正偏差が明瞭だった。

熱帯の対流活動は、インドネシア付近ではほぼ平年並、アラビア海、ベンガル湾、アフリカ赤道域、ブラジル付近で対流活発となった。一方、インド洋、西部太平洋赤道域、日本の南海上では対流不活発となった。フィリピン付近では台風第1号の発生・通過により対流活発となった。SPCZ（南太平洋収束帯）では平年より対流活発だった。

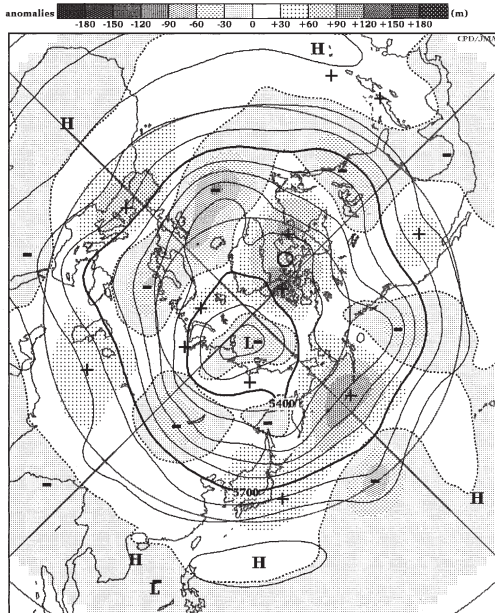
850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、インド洋で高気圧性循環偏差、アラビア海では低気圧性循環偏差が明瞭で、モンスーン循環の強まりを反映している。北太平洋中部では、低気圧性循環偏差が顕著だった。

SOI（南方振動指数）は-0.8で、2005年12月から正の値が続いていたが、今月は負の値に転じた。

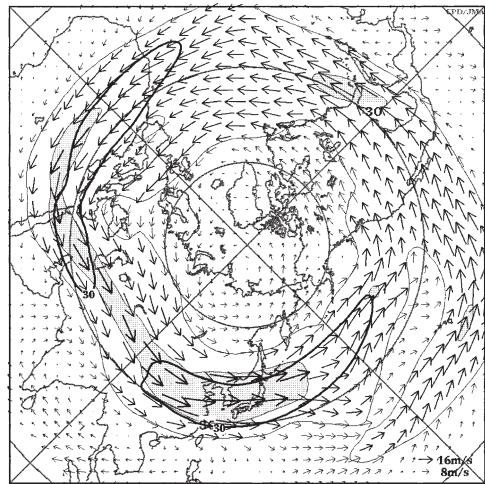
世界の天候

- ① 中国東北区周辺の高温・少雨
- ② 朝鮮半島から中国東部の多雨
中旬に台風第1号が中国南部に上陸し、20人以上が死亡したと伝えられた。
- ③ モンゴル西部から中国南西部の多雨
- ④ 西シベリアから中央アジアの少雨
- ⑤ アジア南部の多雨
フィリピンとベトナムでは、台風第1号の影響で、合計80人が死亡したと伝えられた。タイ北部では下旬の大雨で50人以上が死亡したと報じられた。
- ⑥ 中央アジア南部からサウジアラビア東部の高温
パキスタンでは熱波により約100人が死亡したと報じられた。
- ⑦ バレンツ海周辺から北米北部の高温
- ⑧ ヨーロッパ中部の多雨
- ⑨ 地中海西部沿岸の高温
- ⑩ アフリカ西部の低温・多雨
- ⑪ 米国中西部からメキシコ北部の少雨
- ⑫ パラグアイからアルゼンチンの少雨
- ⑬ オーストラリアの低温

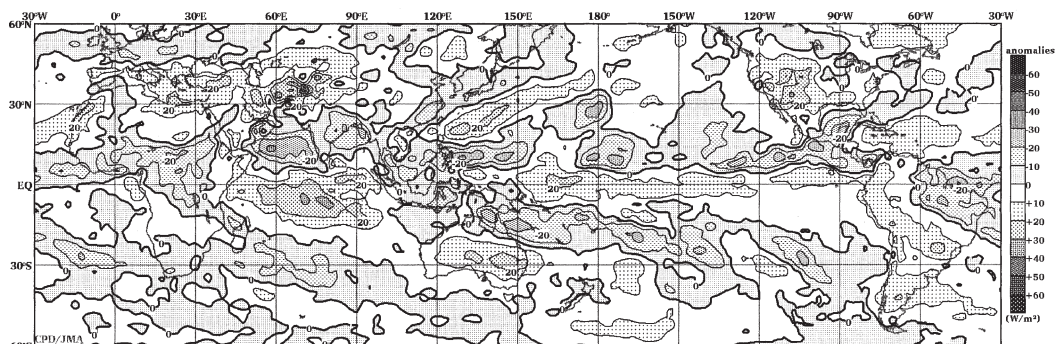
（気象庁地球環境・海洋部気候情報課 松田亜希子）



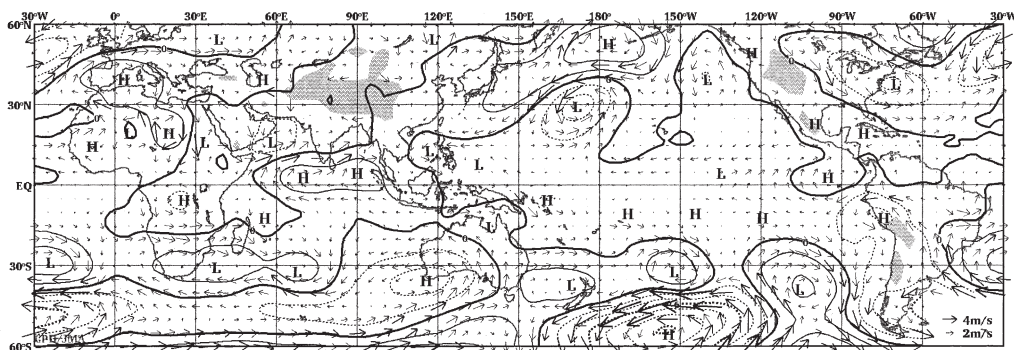
2006年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は60 m, 平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



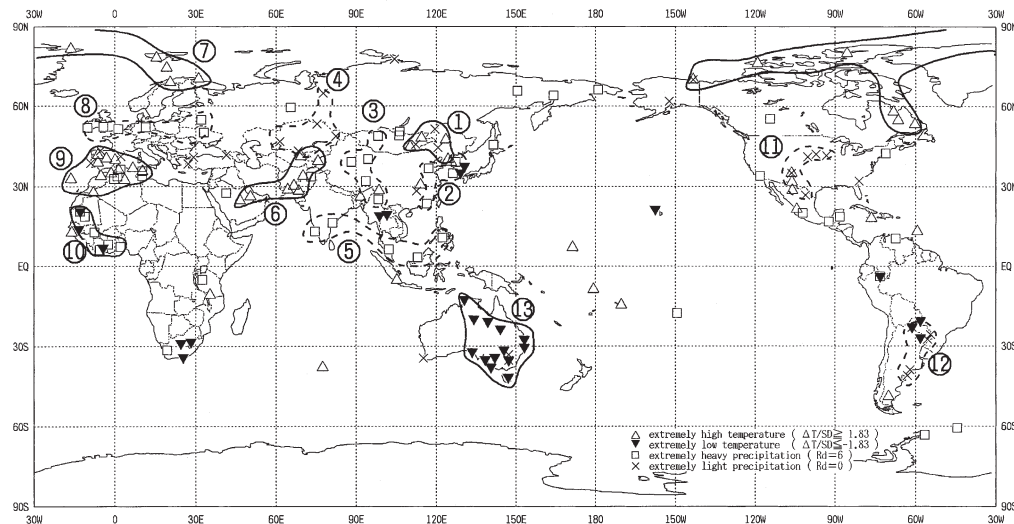
2006年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s, 陰影部は40 m/s以上, 太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1979～1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年5月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は 10 W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはCPC/NCEP/NOAA、年偏差は1979~2000年のデータから作成。



2006年5月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 、年偏差は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2006年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0，図中の番号は本文中の番号と対応している。